

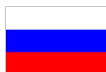
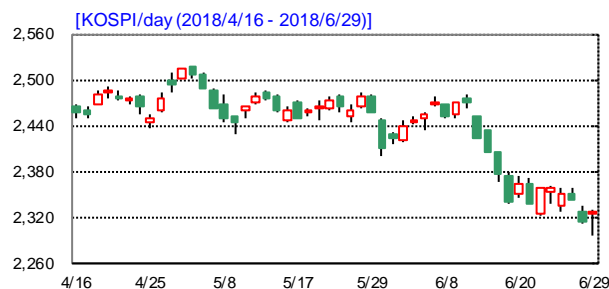


【韓国】 総合指数は週間で 1.3%安と 3 週続落、今週も米通商政策懸念が重しか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.3%安と 3 週続落。米国の通商政策への警戒感から売りが優勢な展開だった。指数は週初 25 日に小幅続伸で始まったものの、その後は 28 日まで 3 日続落。特に 28 日は 2017 年 5 月 23 日以来、およそ 1 年 1 カ月ぶりの安値圏まで下落した。米中貿易摩擦のほか、軟調な米株式相場、韓国ウォンの対米ドルレートの下落なども投資家心理の重荷となった。週末 29 日は短期的な戻りを期待する買いが入ったが、上昇の勢いは限られた。今週は安値圏での買い戻しが入りやすい一方、引き続き米通商政策への懸念で上値が重い展開か。米国と中国の間で交渉の進展がなければ、6 日に米国の対中制裁関税が発動されることになる。国内では貿易統計、製造業 PMI、物価統計など主要経済指標が発表される予定。

▼指数チャート

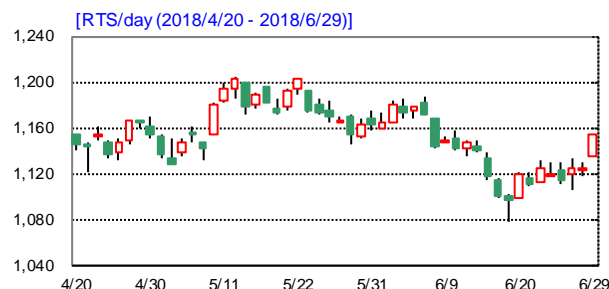


【ロシア】 RTS 指数は 2.6%高と続伸、今週は米ロ関係改善や W 杯効果で好調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.6%高と続伸。米ロの緊張緩和期待、ワールドカップの経済効果、原油高を背景に週末に大幅高となった。週初は小幅に続落してスタートし、28 日まで前週末の水準を挟んでもみ合ったが、週末、月末、四半期末となった 29 日に前日比 2.6%高と大幅に上昇した。フィンランドのヘルシンキで 7 月 16 日にプーチン大統領とトランプ大統領が首脳会談を開くとの報道を受けて米ロの関係改善期待が高まった。ワールドカップ・ロシア大会で外国人旅行者の消費額が最初の 5 日間で約 4000 万ドルに上ったとの報道を受けて GDP 押し上げ効果期待が高まったことや主要輸出産品の原油相場が高値圏で推移したことも株高を後押しした。今週は米ロ関係改善期待やワールドカップ効果で好調続伸か。

▼指数チャート



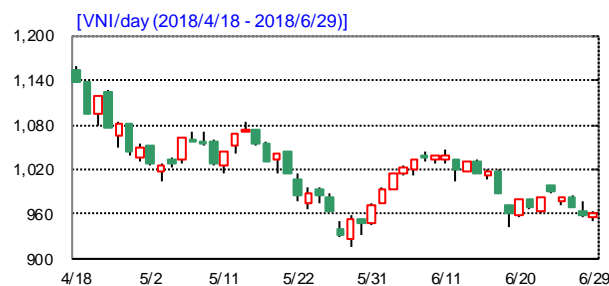
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 2.3%安と 3 週続落、今週も資金流出懸念が重

しか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.3%安と 3 週続落。米中貿易摩擦や資金流出への懸念が引き続き重しとなった。週明け 25 日は不動産や金融株が買われ、指数は前週末 22 日の 1.4%高に続き 0.7%高と上昇してスタートしたが、その後は米中貿易摩擦激化による世界経済減速懸念や通貨ドン安が嫌気されて 3 日続落。29 日は反発して終了したものの、週間では 2.3%安、月間では 1.1%安、四半期では 18.2%安といずれも下落した。対ドルで過去最安値の更新を続けるドンは週間で 0.3%安と 3 週続落し、月間では 0.7%安。個別では時価総額 2 位の不動産のビングループが 5.9%高となった一方、時価総額 3 位のピナミルクが 4.5%安で、時価総額上位の金融株も軒並み安だった。今週は通貨安を背景に資金流出懸念が引き続き重しとなるか。

▼指数チャート

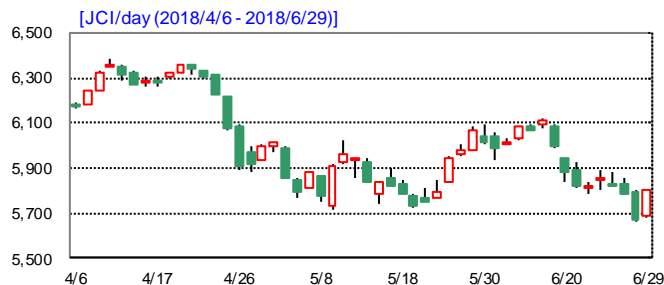


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.4%安、中央銀行が 5 月以来 3 回目の利上げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 0.4%安と続落。6 月月間では 3.1%安。先週は週末の大幅反発が下げ幅を縮めた。週初の 25 日は、5 月の輸出額が前年同月比 12.5%増と市場予想を大きく上回ったことが好感されて、指数は 5 営業日ぶりに反発。ただ、その後は買い材料に乏しく、特に 28 日は米ドルに対するルピアが 15 年 10 月以来の安値を更新したことが嫌気された。一方、29 日は中央銀行がルピア防衛を目的として政策金利を 0.5%引き上げ、5.25%に設定したことで金融株の一角が買われ、指数は終値で前日比 2.3%高と反発して取引を終えた。今週は 2 日に発表される 6 月の CPI に対する市場の反応に注目。

▼指数チャート

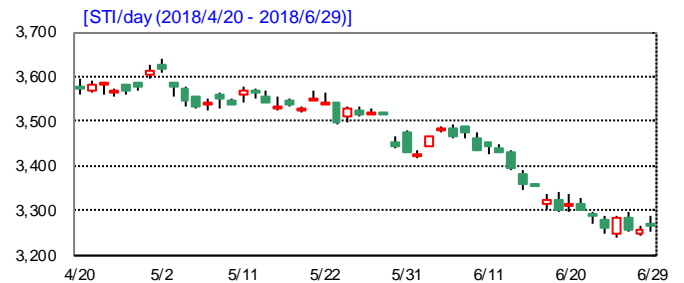


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.6%安、今週は 6 月の製造業 PMI が焦点

スレーツタイムズ指数は週間で 0.6%安と 3 週続落。6 月月間では 4.7%安。先週は後半の上昇が下げ幅の縮小に貢献した。週初の 25 日は、トランプ政権が中国資本による米国企業の買収規制強化を検討していると報じられたことが嫌気されて 3 営業日続落してスタート。一方、26 日は 5 月の鉱工業生産が前年同月比 11.1%増と市場予想から上振れしたことを受けて反発した。その後、27 日は中国株が続落した影響で、指数は終値で約 9 カ月ぶりの安値を更新したが、週後半には買い戻され、続伸して引けた。今週は 2 日の取引終了後に 6 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 52.7 を上回るかが焦点。

▼指数チャート

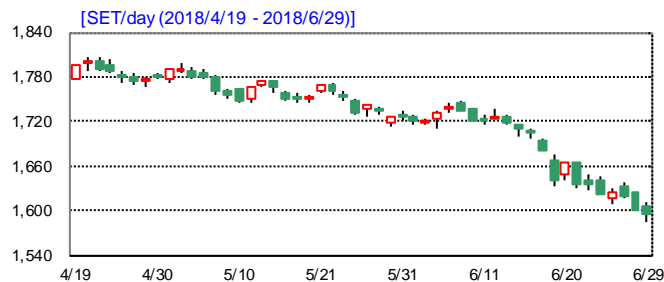


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.4%安、今週は 3 日に 6 月の CPI 発表

SET 指数は週間で 2.4%安と 3 週続落。6 月月間では 7.6%安。先週は買い材料に乏しく、じりじりと下値を広げた。週初の 25 日に反落すると、26 日は小幅に反発したものの、27 日は再び反落。28 日は財務相が 4-6 月期の経済成長が緩やかな伸びにとどまるとの見解を示したことを受けて、指数が終値で前日比 1.2%安と節目の 1600 ポイントを割り込むと、29 日は 10 カ月ぶりの安値を更新して引けた。今週は 2 日に 6 月の CPI が発表される。外部要因では 2 日発表の中国財新製造業 PMI や 5 日に公表される 6 月の米 FOMC 議事要旨が意識されそう。前週末の NY ダウが原油高などを背景に続伸したことは好材料。

▼指数チャート

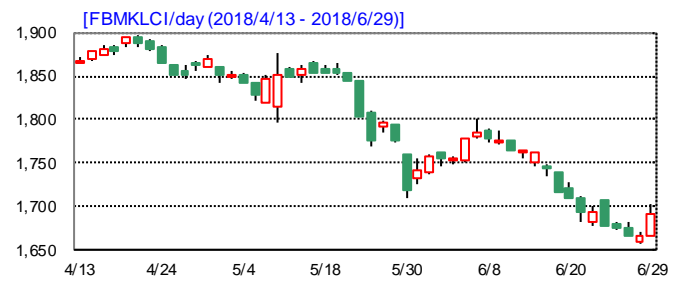


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%安、電気料金値上げでテナガ・ナショナルに買い

クアラルンプール総合指数は週間で 0.2%安と 3 週続落。6 月月間では 2.8%安。先週は週初から軟調な値動きが続いたが、週末の反発が指数の下支えに寄与した。25 日は寄り付きで 1700 ポイントを回復したものの終値では反落。その後も下げ止まらず 28 日まで 4 日続落したが、29 日は前日に中国が外国からの投資規制緩和を正式に発表したことが好感されたほか、7-12 月の産業向け電気料金の引き上げを発表した国営電力会社テナガ・ナショナルが指数上昇をけん引し、前日比 1.6%高と反発して引けた。今週は 5 日に 5 月の貿易統計が発表される予定。リンギ安が続く為替の動向も株式相場を左右しそう。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。